



あきの家、たからのめ

会 期：2018年11月1日（木）～11月5日（月）

会 場：Do a front（山口市堂の前町1-9 岡村材木店倉庫）

■作品1

タイトル：無題

no title

制作年：1980年・1983年

素 材：ビニールクロス、ミックスメディア

【作品解説】

縦の線（垂直線）を描く行為は人間の最も単純で基本的な動きであり、同様に表面をこすりつける行為もまた単純で基本的な動きと言えます。一方は規律を重んじ、もう一方は自由奔放な動きなので、どちらも単純で基本的な身体の動きであっても全く正反対の意味を持つ行為です。透明な画面上にこれらの二つの行為の結果が重なり合っており、それぞれの描線は、透明な画面の表面と裏面の双方に残されています。





あきの家、たからのめ

会 期：2018年11月1日（木）～11月5日（月）

会 場：Do a front（山口市堂の前町1-9 岡村材木店倉庫）

■作品2（円形）

タイトル：月と地球と太陽と …Do a front…

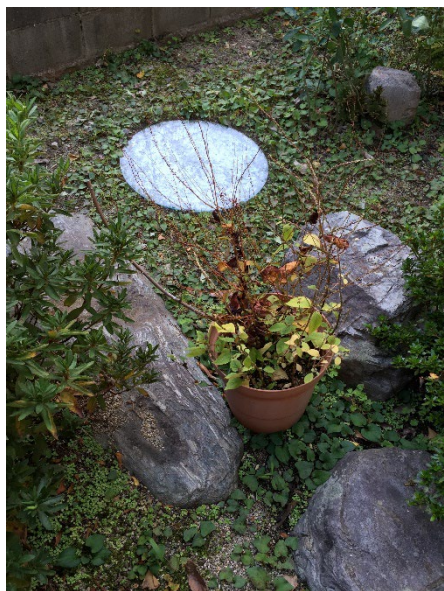
the moon and the earth and the sun …Do a front…

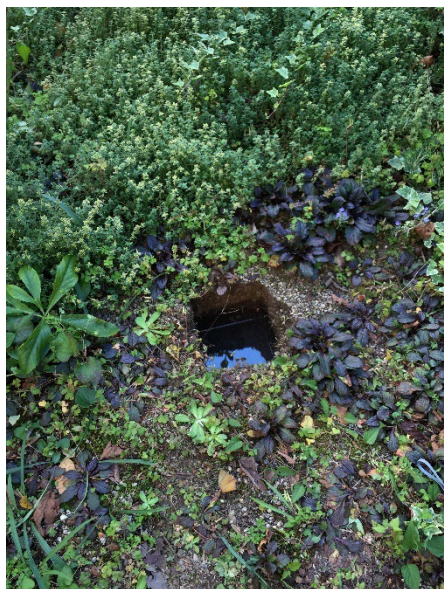
制 作 年：2012年／2018年

素 材：石灰、ガラス

【作品解説】

地表に生えている草や石ころを取り除き、軽く耕した表面に石灰の粉を散りばめ、その上に円形のガラス板を載せています。ガラス板の下面にはその時々々の温度や湿度などの状況により結露が発生するなど、土壌や空気の変化の一端が現れます。また、ガラス板の上面には上空の様子が映り込み、月や太陽が地球と出会う場所ともなります。





あきの家、たからのめ

会 期：2018年11月1日（木）～11月5日（月）

会 場：Do a front（山口市堂の前町1-9 岡村材木店倉庫）

■作品3（立方体）

タイトル：或いは、計り知れない軽さ …Do a front…
or unmeasured lightness …Do a front…

制作年：2018年

素 材：石灰、ガラス



【作品解説】

30枚のガラス板の間に散りばめられた石灰の粉は、宇宙空間に無数に点在する星々を象徴しています。その石灰の粉がガラス板とともに地中に埋め込まれ、天空にあるはずの星々があたかも地中に漂っているかのように見えます。30枚のガラス板と石灰の総量は結構重いのですが、地中で地球と同化することによりその重さ（軽さ）を感じることはできません。それは、宇宙の重さ（軽さ）を感じることはできないことと同じように思えます。